

令和3年度「滋賀県食品ロス削減優良取組表彰」実施結果について

1 受賞者

- ・株式会社平和堂（彦根市西今町1番地）
- ・国立大学法人滋賀大学経済学部地域連携教育推進室（彦根市馬場一丁目1番1号）
- ・有限会社丸二果実店（大津市長等二丁目10番7号）

2 受賞者の取組

株式会社平和堂

サステナブルな社会の実現へ

平和堂のフードバンク活動～「もったいない」を「ありがとう」に～

県内を中心に広く全店舗において、食品ロス削減についての消費者への様々な啓蒙活動を実施。また、地域の社会福祉団体や取引先を巻き込んだ形でのフードバンク、フードドライブ活動の実施などを通して、子ども食堂等の活動や食材を必要とされる方の支援とともに、食品ロス削減に取り組んでいる。

国立大学法人滋賀大学経済学部地域連携教育推進室

滋賀大学における「People`s Pantry・みんなの食品庫」を核にした食品ロス削減の啓発と食料配布の取り組み

2019年に大学内にパントリー（食品庫）を開設し、未利用食品を回収し、必要とする学生に配布している。また、キャンパスを越え、フードバンク団体など周辺地域と連携した取組に展開している。

教員・職員と学生が協力して運営しており、大学の授業やSDGsをテーマにしたイベントとも連動することで、食品ロスの啓発と地域での食品ロス削減につなげている。

有限会社丸二果実店

果物の”旬”を長く、美味しく（果物をドライフルーツに）

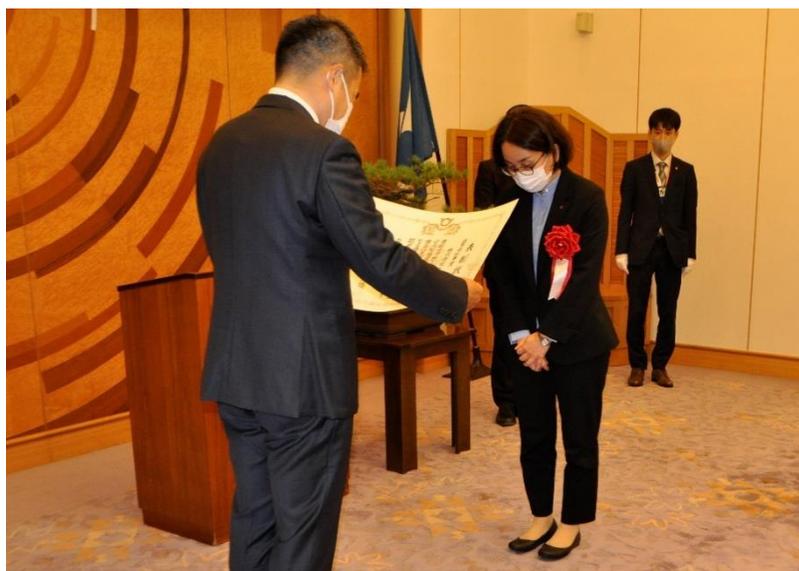
2010年より、見た目が悪い等の理由で店頭販売できない果物をドライフルーツに製品化。試行錯誤を重ねて商品開発し、「果物屋が本気で作ったドライフルーツ」として、店舗やインターネット等で販売。また、店内の喫茶スペースで搾りたてジュースやフルーツパフェなどかたちを変えて販売することで、食品ロスの削減に成功。

3 表彰式

- ・日時：2021年10月19日（火）
- ・場所：滋賀県公館ゲストルーム



【受賞コメント（株式会社平和堂サステナビリティ推進室長鷓鴣（ささき）真知子様）】
この度は、栄えある賞をいただき、ありがとうございます。地域のみなさま、平和堂にご来店くださるお客様、そしてお取引先様のご協力があり、今回の受賞につながったと思います。まだ開始したばかりの活動ではありますが、資源を無駄にしない取組として、これからも食品ロスの削減につながるよう、活動を続けてまいります。また、地球規模や地域社会のサステナビリティについて、平和堂グループとして、積極的に関わることで、地球環境や地域の健康、地域の課題解決につながるよう努めてまいります。



表彰状授与（株式会社平和堂）

【受賞コメント（滋賀大学経済学部地域連携教育推進室室長柴田雅美様）】

この度は優良取り組みとして選定いただき、ありがとうございます。

キャンパス SDGs 活動として地域連携教育推進室から小さく始めたものが、学生らの自主活動と連携し、地域に広がる活動になってきました。食品庫を利用する学生の数も増えており、食品ロス削減の啓発が進むことに加え、コロナ禍であっても、大学に来たら食品が調達できたり、地域連携教育推進室のスタッフやこの場に集う学生と会話や交流ができたりと、学生にとって心と体の安心が得られる居場所にもなっています。

今回の受賞を励みに、地域連携教育推進室や「みんなの食品庫」の役割をより充実したいと考えています。さらに、地域との関係においても、大学の地域貢献という枠に留まらず、大学や大学生が地域社会を構成する一員であることを自覚し、活動に注力したいと思います。



表彰状授与（国立大学法人滋賀大学経済学部地域連携教育推進室）

【受賞コメント（有限会社丸二果実店寺田みどり様）】

丸二果実店は、1912年に創業。

大津市長等の菱屋町商店街にある小さな果物屋です。

果物は「旬」がとても美味しい。お客様に「旬」の果物を長く食べて頂ける商品を日々作っています。

商品の形にはこだわらず、果物屋だからできることを考え試行錯誤しフルーツサンドやパフェ、ドライフルーツの販売を始めました。

フルーツサンドは誰でも1口で食べられる大きさに。ドライフルーツは果物の素材の味、本来の甘さを知っていただけるために砂糖不使用・無添加です。どの商品もお客様目線を大切に、商品化しています。

安心・安全に味わっていただける商品を作り続けていきたいです。



表彰状授与（有限会社丸二果実店）



株式会社 平和堂 (滋賀県彦根市西今町1番地)

平和堂の取組

サステナブルな社会の実現へ

平和堂のフードバンク活動～「もったいない」を「ありがとう」に～

株式会社平和堂は、かねてより商品の廃棄削減や適量販売などにより、事業者として食品ロス削減に取り組んでいる。

また、食品ロスの問題が大きな社会問題になっている中、国内で排出される食品ロスの約半数が家庭で発生していることを受け、消費者にも改めて食品ロスについて考えるきっかけを持っていただくために、全店舗において、店頭での食品ロス削減についての啓蒙活動を行っている。

1. 地域のみなさんと取り組むフードドライブ活動

2021年5月より、地域の社会福祉協議会やボランティア団体の活動場所として、店頭スペースをフードドライブ活動のために提供開始。一部店舗では、フードバンク団体と覚書を締結し、定期的にフードドライブ活動を実施している。

2. 「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」を通じての子ども食堂運営や、食材を必要とされる方々の支援

2021年6月より、店舗で発生する食品ロスの削減と資源の有効活用を目的として、販売期限を迎えた精米を滋賀県社会福祉協議会へ毎月提供。精米の配送は、年間スケジュールを事前に決め、安定した運用ができるよう体制を整えている。平和堂グループ企業の「株式会社丸善」(7月～)、「株式会社エール」(8月～)も精米の寄付を開始。



(左)滋賀県社会福祉協議会のみなさま



3. 取引先と取り組むフードバンク活動

2021年7月より、加工食品の取引先企業「旭食品株式会社」から、納入期限を超えた商品を平和堂物流センターに持ち込みいただき、毎月の精米と合わせて自社物流便で滋賀県社会福祉協議会に提供。

今後、他社にも支援の輪が広がることを想定している。



旭食品様(後列中央2名)



4. その他の取組

2020年9月より、彦根市内の平和堂グループ3店舗にフードバンクポストを設置。

また、2021年4月より、平和堂本部内で余剰商品（サンプル等含む）回収ボックスを常設し、フードドライブを開始。集まった商品は「フードバンクひこね」に毎月提供。

受賞者コメント

この度は、栄えある賞をいただき、ありがとうございます。地域のみなさま、平和堂にご来店くださるお客様、そしてお取引先様のご協力があり、今回の受賞につながったと思います。まだ開始したばかりの活動ではありますが、資源を無駄にしない取組として、これからも食品ロスの削減につながるよう、活動を続けてまいります。また、地球規模や地域社会のサステナビリティについて、平和堂グループとして、積極的に関わることで、地球環境や地域の健康、地域の課題解決につながるよう努めてまいります。

国立大学法人 滋賀大学 経済学部 地域連携教育推進室

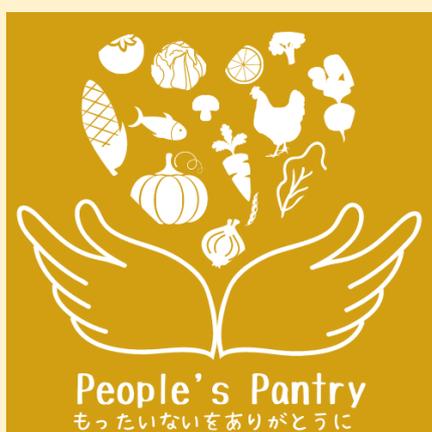
(滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号)



SHIGA UNIVERSITY

滋賀大学の取組

滋賀大学における「People`s Pantry・みんなの食品庫」 を核にした食品ロス削減の啓発と食料配布の取り組み



2019年11月に滋賀大学で実施したキャンパスSDGsのイベント「サステナウィーク」の取り組みの一つとして開始して以降、滋賀大学彦根キャンパスの地域連携教育推進室内に常設のパントリー「People`s Pantry みんなの食品庫」を開設。教職員や学生らが家庭に保管している食品で余ったり不要になったものを受付し、必要とする学生への配布活動を行っている。

パントリーの運営は、地域連携教育推進室のスタッフと2020年に発足した学生自主活動グループ「滋賀大学サステナビリティ研究会」の学生らが担っている。

大学内で行うことで、教職員・学生への食品ロス削減の啓発と必要な人への配布が効率的に行え、ロス食品が活用されていることが見える化できている。



大学の授業や SDGs をテーマにしたイベントと常に連携して実施するとともに、「サステナビリティ研究会」発足以降は、教職員・学生の連携が活発になっており、今後も食品ロス削減の啓発とロス食品の有効活用が期待される。

また、地域の「フードバンクひこね」の活動に教員や学生らがボランティアとして参加し、運営に協力するとともに、食品庫で配布する食材の供給を受けている。

活動を通じて、彦根市社会福祉協議会とも連携・協力し、学生が中心となり大学周辺の自治会（各家庭）や農業者から不要になった食材や規格外野菜の提供を募るなど、地域との関わりも広がってきており、地域への食品ロス削減への効果も期待できる。



受賞者コメント

この度は優良取り組みとして選定いただき、ありがとうございます。

キャンパス SDGs 活動として地域連携教育推進室から小さく始めたものが、学生らの自主活動と連携し、地域に広がる活動になってきました。食品庫を利用する学生の数も増えており、食品ロス削減の啓発が進むことに加え、コロナ禍であっても、大学に来たら食品が調達できたり、地域連携教育推進室のスタッフやこの場に集う学生と会話や交流ができたりと、学生にとって心と体の安心が得られる居場所にもなっています。

今回の受賞を励みに、地域連携教育推進室や「みんなの食品庫」の役割をより充実したいと考えています。さらに、地域との関係においても、大学の地域貢献という枠に留まらず、大学や大学生が地域社会を構成する一員であることを自覚し、活動に注力したいと思います。



有限会社 丸二果実店 (滋賀県大津市長等二丁目10-7)

丸二果実店の取組

果物の”旬”を長く、美味しく

果物はとても美味しい食べ物ですが、その旬はとても短く表面に傷が付きやすく傷みやすい。そうなるとう商品の価値がなくなり、やむを得ず廃棄処分するしかなかった。

そこで、味や品質など消費者に提供する方法を考え、その果物の良い部分を活用し、果物を乾燥させたドライフルーツにすれば旬の果物を長く美味しく食べて頂けるのではないかと考え、商品化に取り組む。試行錯誤を重ねながら商品開発され、「果物屋が本気で作ったドライフルーツ」として、2010年から販売を開始。



例えば、夏限定のスイカのドライフルーツであれば、皮だけでなく種まで食べられるなど、ドライフルーツを商品化できたことで、今まで当たり前廃棄していた皮や種も果物の一部として味わうことが可能となった。現在、関西だけでなく、東京・横浜へと取扱店舗も徐々に増やし、またインターネット販売も手掛けるなど、販路を拡大するとともに、SNS等で幅広い年齢層への認知度が高まり、全国各地から問い合わせが来ている。



また、2011年に店舗内に喫茶スペースを増設し、「搾りたてのジュース」や、「日替わりのフルーツパフェ」、「看板メニューのフルーツサンド」といったように、かたちを変えて販売。より多くの方に知ってもらうために、クッキーの型抜きで星やハートの形にした「型抜きドライフルーツ」をフルーツパフェにトッピングするなど、様々な工夫をしながら取り組んでいる。その結果、1年あたりの食品ロス量をこれまでの半分以上削減することに成功している。



受賞者コメント

丸二果実店は、1912年に創業。

大津市長等の菱屋町商店街にある小さな果物屋です。

果物は「旬」がとても美味しい。お客様に「旬」の果物を長く食べて頂ける商品を日々作っています。

商品の形にはこだわらず、果物屋だからできることを考え試行錯誤しフルーツサンドやパフェ、ドライフルーツの販売を始めました。

フルーツサンドは誰でも1口で食べられる大きさに。ドライフルーツは果物の素材の味、本来の甘さを知っていただけるために砂糖不使用・無添加です。どの商品もお客様目線を大切に、商品化しています。

安心・安全に味わっていただける商品を作り続けていきたいです。

